

あづみ野

第114号


平成17年1月17日発行

まつかわ 議会 だより



まぶしい陽を浴び「おめでとう!!」
 (平穩無事を祈る、川西地区三九郎)

主な内容

- 12月定例会と
第2回臨時会…………… 2～3
- 議会の動き…………… 4～5
- 村政をただす  ……6～14
- 〈12人の議員が登壇〉…6～14
- 一部事務組合報告…14～15
- あれはどうなってるだい!?…16

明けましておめでとうございませう。年頭にあたり、皆様にはご健勝で新春をお迎えになられたことと、心からお慶びを申し上げます。

昨年は夏の猛暑、新潟県中越地震、最多の10個が上陸した台風、また海外ではスマトラ沖地震による津波など災害の多い年であり、早急な復興を願っています。さて、本年は戦後60年となります。戦争で犠牲になられた155御柱を松川神社に奉つて、英霊をお守りしておりますが、戦争の無い世界平和を心から祈念しています。

12月定例議会で議員定数を次回選挙から4人減の12人と決めて、今後とも是非々々で進めることを確認いたしました。皆様方とともに良い年となるよう議員一同、村発展のため全力を傾注して参りますので、ご協力をお願い申し上げます。

松川村議会

12月定例会



前回から課長補佐も議会に出席し、村長をはじめ答弁者は14人

台風23号豪雨による災害復旧費約9千万円を議決

農林水産業施設には約4千8百万円

平成16年第4回定例会を、12月14日から22日まで9日間の会期で開催しました。

議案は、平成16年度補正予算関係6件・条例改正2件・北アルプス広域の基金一部処分1件・県の町村数の減少関係2件・報告8件で、いずれも議決・承認しました。

議会の市町村合併等研究特別委員会が協議してきた、議員定数削減の条例改正〔4頁参照〕議案を現行16人の定数を4人減じ12人とし、次期の選挙から適用することを賛成多数で可決しました。一般質問には、12人の議員が登壇しました。

村長は、議会冒頭のあいさつで、

「平成17年度予算編成は、歳入の確保で歳出は節減、優先順位を選択し、個性豊かで活力と潤いのある村づくりの予算とする。新体制の消防団の団旗を引渡す。平成17年2月26日から3月5日まで、スペシャルオリンピック冬季世界大会長野が行なわれる。村はオーストリアチームの選手役員総勢23名を受け入れる。台風23号で、農業用施設などに大きな被害を受けた。速やかな復旧に努める。今年の中信地区の水稲作況は103となった。来年度の生産調整は大北管内で約2万1千トと、今年より1ト少ない。鼠穴と北細野の各地区集会所、高瀬川河川敷マレットゴルフ場9ホール増設は、年度内完成で工事中」

次期選挙から議員定数は12人

〔4頁参照〕

議会の市町村合併等研究特別委員会で協議してきた、議員定数削減について、現行16人の定数を4人減じ、12人とする条例改正を、賛成多数で可決しました。

議員15人のうち12人が賛成者となった議員提案で、森平副議長が提案説明を行ないました。

この議案に対し、質疑はなく、賛成討論を新村久仁男議員・平林寛也議員・佐藤節子議員・丸山

議案は、議長を除く議

好衛議員が行ない、反対討論を倉科和議員・井川昶子議員・宮崎弘議員が行ないました。

この条例の一部改正は、次期の一一般選挙から適用となります。

23号台風などの被災者負担金を軽減する条例改正

軽減する条例改正

「分担金徴収条例の一部改正」が提出され、23号台風などの被害者負担金を軽減で、全会一致で可決しました。内容は、農林水産業施設災害復旧事業の経費のうち、補助金を充当した金額外の、被

災者の分担金を、今まで
の4割から3割に軽減す
る一部改正で、平成16年
10月22日から適用となり
ます。

平成16年度一般会計補正予算 23号台風緊急対応

緊急の災害復旧関係で、
台風23号の際の土囊・業
者委託など農業用施設・
林業施設・道路橋梁の緊
急復旧関係に、歳入歳出
それぞれ527万円追加
した10月26日の専決処分
を承認しました。
また、歳入歳出それぞ
れ7764万円追加する

北アルプス広域連合の
基金一部処分は、ふるさ
と市町村圏基金から1億
円を介護保険運営に向け
るため処分するものです。

補正が提出され、一般会
計予算総額は歳入歳出そ
れぞれ40億9162万円
となります。

歳入の主なものは、寄
つて停まつかわの売店販
売収入2276万円・災
害復旧費国庫補助金17
50万円・特別交付税1
502万円・村内の方か

第2回臨時会 一般職の給与条例改正

平成16年10月25日、
第2回臨時会を開催し
ました。国に準じての
改正で、「一般職の職員
の給与に関する条例の

一部を改正する条例」
1件が提出され、全一
致で可決しました。
改正された内容は、
役場職員給与の「寒冷
地手当」について、こ
れまでの一般職の職員
全員に10月一括支給を、
今年度から11月より翌
年3月までの5か月間
の分割支給とし、支給
額が引き下げとなり、
全体で約180万円の
減額が見込まれます。

らの、森の里親事業指定
の寄付金100万円な
どです。

歳入の主なものは、農
林水産業施設災害復旧費
4424万円・寄つて停
まつかわの売店仕入消耗
品費1930万円・合併
浄化槽設置補助など清掃
費補助金358万円・寄
つて停まつかわの基金
積立金350万円・商工
費の不況対策特別利子補
給金と制度資金保証料に
226万円などです。

〔注〕森の里親事業
県事業で地元企業の
寄附金などの支援で里
山などの森林整備を進
めるための事業

一般質問に12人が登壇

村の皆さんの代弁者と
して、行政に対し、23号
台風の災害復旧・農業振
興・自立の村づくりと新
年度予算・観光行政・福
祉行政など村民の意見を
反映した村づくりへの提
言など、幅広い視点で村
政をただしました。

陳 情

【採択】

米軍機墜落事故に抗議するとともに、普天間基地の早期返
還、日米地位協定の抜本改定を求める意見書採択の陳情
美浜原発の配管破断事故に関する意見書採択の陳情
安全・安心の医療制度の確立を求める陳情書
誰もが安心して利用できる介護保険制度への改善を求める
陳情書

「食料・農業・農村基本計画」見直しに関する陳情
WTO・FTA交渉に関する陳情

【趣旨採択】

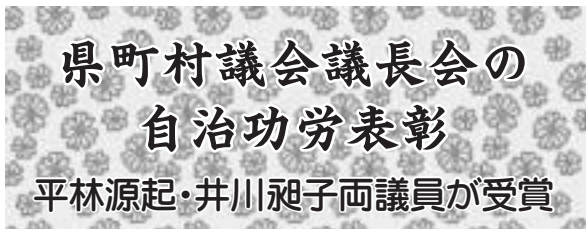
「自衛隊のイラク多国籍軍からの離脱を求める意見書」に
ついで陳情

【継続審査】

温暖化対策税の創設を求める意見書の送付について



受賞の両議員



平林源起・井川昶子両議員は、議会議員に10年
以上在職し、地方自治の振興に功労があったとし
て、昨年10月15日、長野県町村議会議長会の表彰
を受けました。

両議員とも平成6年の村議会議員一般選挙で初
当選し、現在3期目です。

議会の動き

議員定数を4人削減し、12人とする 条例改正を議員提出し、賛成多数で可決

12月22日の定例会最終日に、議会の市町村合併等研究特別委員会が23回の協議の結果、議員定数削減の条例改正〔2頁参照〕議案を12人の議員が提出し、現行16人の定数を4人減じ12人とし、次期選挙から適用することを、賛成多数で可決しました。

次期選挙から

議員定数12人

平成14年6月21日の議会本会議で特別委員会を議員16人で設置し、協議を重ねて、その間、議会だよりによる中間報告と村民意見の公聴集約などを経過として、23回の会議を開催してきました。

9月8日の21回目には、「議員定数減とする」または「報酬減とする」の意見集約を行い、13対3で定数を削減することに決定しました。

前回議会だよりで既報

この条例改正は次期の一般選挙から適用です。なお、常任委員会については、3月定例会に条例改正します。

この議員定数削減について、皆様方のご意見も積極的に聞き、この決定に反映させていただきました。

反対・賛成の意見はありますが、自立にむけて目的達成のために考え方を順序良く整理し、定められた方向で誇りある郷土づくりを進めていかなくてはならない時です。

国の政策は今なお不透明で財政は行き詰まり、社会の仕組みも大きく変わるうとしています。

議会は、村民皆様のご意見をお聞きし行政に提言し、中立で公平な活動を、今まで以上にしっかりと取り組んでいきますので、ご意見をぜひお寄せください。

この議決をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

ですが、9月21日の22回目の会議において、定数減の人数について無記名投票を行ないました。その結果、定数10が2人・12が9人・13が1人・14が1人・16が3人となり、定数を12人とし4人削減することに決まりました。

条例改正議案は、議長を除く議員15人のうち12人が提出者・賛成者となり議員提案で、副議長が提案説明を行いました。

この議案に対し、質疑はなく、賛成討論を4議員が、反対討論を3議員が行い、12対3の賛成多数で可決しました。

自律には「村づくり協議会」を設置 上伊那郡宮田村を視察

総務常任委員会

自律のむらづくりを進めていくには、想像以上に厳しく、行政運営も新たな時代に向けて脱皮し、住民も痛みを分かち合うこととなります。基本理念は「協働の精神」で、キーワードは「住民自らの自助努力」とそれを力パする「地域における共助」村として解決すべき「公助」の役割分担とパートナーシップの確立です。

自律推進へ向けた取り組みのなかで特筆すべきは、地方自治の主人公である住民と行政の協働組織として「むらづくり協議会」を設置したこと

です。委員は各種団体からの推薦委員と20代から60代までの公募委員など、計66人の構成で、「財政」行政・住民参加、「福祉・環境」「地域産業」「教育・文化」の5グループが分野別に自律に向けての研究・協議を行い、村長に提言し、提言は行財政計画や実施計画に反映するものです。また、職員の地区担当制や地域づくり

支援事業も新たに施行されています。

住民の行政参画と協働の精神を第一に考えていることに感じました。

議員定数の削減は、自律と平行し、平成15年3月に区長会に諮問、同年6月に、現在の16人から10人に改める答申を受け、議会では5回にわたり慎重に審議をした結果、一挙に6人減になると常任委員会などに支障をきたす恐れがあるとし、4人減の12人となりました。常任委員会は2委員会として順調に進んでいるそうです。



宮田村議会の方々と

「時代に勝ち抜くまちづくり」と 「住民で支える福祉」 北佐久郡御代田町を視察

社会文教常任委員会

これからは自治体としての力量が試されると考え、「国の政策が変わっても、自立した町を構築する」という強い信念で、「自律・協働のまちづくり」に取り組まれていました。

まず、住民理解には計画作りからと、町内17地区を各地区4回、会議を開催して来られたそうです。すでに整備された各種施設などを活用し、魅力ある「住みたいまちづくり」を進めておられます。

定数削減で議会改革

自立を選択した人口1万4000人の「北佐久郡御代田町」の、「まちづくり」と「福祉」について勉強してきました。

住みたいまちづくり

御代田町は、平成14年に、佐久市・白田町・浅科村と任意合併協議会を設置し協議をしてきましたが、合併反対の民意で、平成15年に離脱し、自立を決めています。

住民でささえる福祉

在宅介護を中心とした地域福祉を先進的に取組む、御代田町社会福祉協



御代田町社会福祉協議会の方々と

議会「ハートピアみよた」を視察しました。

高齢化が進み、社会構造が変革するなか、本人や家族の望む柔軟な体制作りをと、通所を基本とした福祉構想で、地域と住民がいつしよに、その人の望む福祉を」と、協働の地域づくりを展開されています。

福祉関係の食事は、施設・在宅・配食など、すべて食生活改善グループで取組み、地元の季節感のある、おいしい安全な食材で調理をし、このように、地域全体の協働でいきいきとした福祉活動を展開されていました。

台風23号被害の松川村内 現場視察

産業建設常任委員会

台風23号（10月20日夜）は、松川村にも多大な被害が出ました。10月25日に被害状況と災害復旧対策について村担当者と現場視察を行いました。

増水による大きな被害

川西の横沢さん宅北側の山が崩落し、土砂が道



川西地区の土砂流出現場を視察中

状況、カントリーエレベーター西から細野の奥原さん宅までの間の前川増水の被害状況とその防止対策について、また細野地区の乳川堤防の半壊現場の緊急対策工事と各地区の畦畔崩落現場などを視察

しました。
村と消防団の対応に感謝

視察のあと検討協議した結果、委員会として次の見解をまとめました。
20日夜は消防団員が出動、21日午前3時ころまで前川など中小河川の災害防止に献身的に努め、被害を最小限に抑えられたことに感謝する。

村は災害対策本部を即設置し、用水路・道路などの土砂排除を行い、村民の通常生活に支障の無いようにし、緊急対応と災害調査に努められたことを評価する。

なお、今後の対策について
村は緊急的な対応とともに今後の災害復旧に最大限、国と県の対策事業を導入し、災害復旧費の村と個人負担の軽減に努めること

内山沢の土砂流出被害は常習化しており、上流部に砂防堤を、下流部に沈砂池設置が必要など村に提言しました。

一般質問



村政もたがみ

＝12人の議員が登壇＝

災害時の放送には状況も知らせて
良い方法を検討する

榛葉 良子議員

危機管理について

問 台風23号の時の村と消防団のご苦労に感謝している。村長は、今回の対応はどうだったか。

答 最大限の努力をした。

問 川西地区の公園墓地下の水路など毎回同じような被害が起き、また、今回は内山沢でも被害が出ている。下流部の河川整備ばかりでなく上流部で砂防堰堤とか沈砂池を

作ることが有効と思うがどうか。

答 内山沢は県と協議し、堰堤・沈砂池を要望中。

問 防災無線があつてよかつたが、有効利用方法など村民にPRが必要。

答 取り付けの時と広報12月号で知らせた。

問 全体的に気をつけることや災害状況など知ってもらうために状況を村民に知らせて欲しい。

答 庁内研究で良い方法を検討する。



前川の橋に水がぶつかり土壌を積んでもあふれる状態

問 村社協が新潟県川口町へボランティアに行つたが行政も同行したか。

答 村職員も参加した。

問 体験を参考にして防災体制の見直しを。

答 報告を見て考える。

問 村の非常食確保はしているか。

答 農協と食料供給の協定を結んでいるし、県とも話し合いをしている。

問 炊き出しに日赤奉仕団のような組織は。

答 組織はあり、社協に20〜30人いる。また、近隣とも協力してあたる。

問 地区自主防災組織は。

答 4地区にできている。他は区長にお願いをしている。

問 地域の助け合いが大切。下駄履き福祉のように、村で講座を開き村独自の資格で活躍できる取り組みを。

答 前向きに検討したい。

水稻作付けたくさんに

問 営農支援センターが稼働しているが、センター長としての抱負は。

答 中規模農家を守るという公約の中で職員も派遣し、村も支えていく。

問 集落営農組織作りの進行状況は。

答 鼠穴地区で意見交換やアンケートをとりモデルとして推進している。

問 土地は個人のもんだが、適地適作など「全村一農場」の考えはないか。

答 自己完結型農業の松川村は、自発的な取り組みの集落営農を進める。

問 認定農業者機械購入補助金、農地集積促進事業や、農地流動化交付金など、村独自の補助金は今後も継続するか。

答 必要なものは残す。

問 目的達成のため有効に使い、農業発展の方向で指導してほしい。

答 やる。

問 地域間調整で水稻作付けを多くしてほしい。

答 農家の要望を受け、たくさんもちょう。



まだ300人しか聞いていない自立の説明
 全村への説明会を検討する

白澤 富貴子議員

取り組みの順序が違う

問 村づくり戦略で自立の地区説明に、各会場何人出席か。
 答 10地区が終了。各会場20〜30人の参加。
 問 村は17年度予算時期村づくり戦略を聞いた村民は300人で聞いていない方が多い。全村対象か。

に説明会をするべき。3月までに全区おこなうか資料の変更はないか。
 答 広報で説明した。他地区に出席しても可だが全村も検討する。1月に2地区でする。他は早くにと依頼中。地方財政計画決定で資料変更もある。
 問 誇り・夢を持ちどんな村にするために、資料作成したのか。村民に理解してもらつてから、予算編成をすべきで順番が違う。
 答 明るく楽しい健康で豊かな村づくりをする。3月定例会の予算提出に間に合わない。
 問 全村民への説明を早くしてほしかった。資料で今後10年間で36億8200万円が赤字と予測し毎年人件費を8200万円・物件費・補助金・借入金など2億3200万円歳出減とし、積立基金を毎年1億円取り崩し、歳入の使用料手数料を毎年1300万円収入増としていく。この削減方法や歳入の確保を17年度予算編成にどう具体化するか。



村づくりには村民参加の委員会を(東部区の育成会でものづくり)

答 11月末に全区の要望を聞いた。財政シミュレーションは前提条件で今後情勢が変わり、一つの項目は今答えられないし、今後交付税が増えるかもしれない。
 問 目標を定めたからには具体的な取り組みをたずねている。
 答 職員定数は95人で現在86人。最終の26年度に80人まで減。17年度予算で物件費圧縮をしている。
 問 保育園に国と県の負担金が今年からないが。
 答 国庫補助金がなくなり交付税となる。
 問 昨年の保育園収支は3438万円不足、今年は無く9968

万円不足。同規模の自治体では毎年保育料を3歳ずつ5年間引上げの計画などある。歳出をおさえる歳入を増やす方法は、答 福祉関係に重点配分し調整中。
 「村づくり委員会」を
 問 協働の資料作成は。
 答 意見を聞き作成。
 問 村民の大勢で「村づくり委員会」を。
 答 参考にし検討に入る。
 問 区の役員がとも大
 答 地区担当職員配置を
 問 区長会では不要というが、17年度に区長も一部変わるので検討する。

休日返上などで観光を村の力に!!

前向きに考えたい

佐藤 節子議員

村発展をめざす 観光政策について

問 11月18日から30日まで寄って停まつかわで開かれた絵画展の評価と成果は。

答 実行委員会と共催で行ったが寄って停まつかわのPRにもなり相乗効果

果はあったと思う。

問 皆さんから大変好評だった今後の開催に向けての考えは。

答 要請があれば前向きに運営委員会などで検討したい。

問 駐車場の利用状況を調べてみたが高速バス利用者専用の駐車場の表示が小さくはつきりしないため、一般の駐車場へ置く場合が多い。表示を工夫できないか。

答 現地を確認してわかりやすい表示をする。

問 高速バスの停留所を安全や利便の点からもう少し南へ移動できないか。

答 バス会社と協議して最適な位置である。

問 道の駅へレンタサイクルの配置をしないか。

答 現在は観光協会が要望のあるときだけ置いてある。常設できないか提案する。

問 観光協会のリンゴオーナーが増えたり県外からの観光客が長野自動車道を利用して来村する場合、高速道路出入口に松川村の表示が無い。豊科インターの案内板に松川

放置の荒廃農地は近隣の迷惑

改善するよう話し合う

矢口 弦八郎議員

開発はまず村でチェックを

問 現在の村づくり条例での開発手順は、地元判断を委ねる形になっているが、行政から開発業者に対して指導や方針を示して、村づくりや環境づくりをした方が良くと思うがどうか。

答 村づくり条例は「業者の責任で地元と話し合い」「地元は自分達の地域の土地利用は自分達で考える精神」が基本となっている。

問 精神はわかるが公害など見きわめてから地元宅地開発で行政・地元からの要請が履行されているか調査しているか。

答 庁内で確認し完了検査した。

問 荒廃農地は近隣に迷惑をかけている。行政側から地主に、土地開発公社での開発などを含め直接指導してほしい。

答 地権者の了解なしで交換・開発はできない。現状を改善するよう話し合いたい。

問 営農支援センターについて

答 営農支援センターの役割や使命を理解してい

ない人もあるがどう考えるか。

答 全ての農家の対応は営農支援センターでい

うことが目的。

問 稲作農家の高齢化などの実情をどう考えるか。

答 集落営農を進めるよう動いている。

問 営農支援センターは村の農業をまとめ、方向を出していく所で、だれの相談でも受ける所だと思

うが。

答 農家・行政・JAなどの連携が取れるようにする所が営農支援センターであり努力していく。

問 米作りに明るい見通しや魅力が無く、懇談会の参加者も少なく、水田農業ビジョンもとても理解しにくい。そんな中これからの農業をどのように指導していくか。

答 小さいものにも取り組み集落営農のモデルケースを作り、積極的に村内に出向いていき、行政の押し付けではなく農家の方が自らの意識改革をしてもらえるように努力していきたい。



「村づくり条例」で地元の要請が履行できるよう指導



「松川村」の文字がほしいインターの案内板

村の文字を加えてもらえないか。

答 松川村を加えてもらえるよう努力する。

問 寄って停は、水曜休日を返上して営業した。近隣の道の駅など夜9時まで営業して、とても好評。松川村も、観光を村の力にすることが大切。営業時間など今後はどうするか。

答 休日営業は試験的に始めた。今後は運営委員会で検討し前向きに考えたい。

防災対策の強化を

問 12月2日に支援ボランティアや区長会が新潟県へ行ったが体験を参考にし、地区防災会を立ち上げる必要があるかどうか。また、暮らしのガイドブックを利用して防災を再点検しないか。防災には地域の話し合いの中から助け合う心や、支援する心を育てることが大切だと思うがどうか。

答 大切なことと思う。助け合う心で協力して進めたい。

自律する予算での重点施策は しばらく時間がほしい

森 平蔵議員

平成17年度の村予算編成方針と重点施策

問 自律に向けて予算編成を各課配分方式で行うと聞いているが内容は。答 歳入を多く見込めないうち、経常経費と、どうしても必要なものを先に計上する方針にした。

問 国が17年度の予算案

を発表した。村への影響はどうか。

答 国の地方交付税総額は前年に比べ（補助金の交付税振り替えなどがあり）増えた。臨時財政対策債は、村では5〜6千万円減ると思う。

問 国の補助金のうち義務教育費が県に移管されると聞く。日本の教育制度は国が一括してやってきて成果があつたが、国は県に責任を押し付けている。どう対策をとるか。

答 義務教育費国庫負担金は国の三位一体改革で削減するといわれ、全国にどう配分するかは年明けの総務省、中央教育審議会ですべて具体化される。

問 上緑町工業団地の地区説明会で要望のあつた水路改修はぜひやってほしい。また米の生産調整は適地適作を推進するために、地域間調整を進めてほしい。

答 大北水田農業推進協議会で要望する。19年度以降国の助成は分からないが、村は自律で進めなければならぬ。営農支援センターを中心に水田

農業ビジョンで取り組む。

村民の命を守る災害対策

問 台風23号の被害状況は。

答 農道・河川・畦畔・林道などが被害を受けた。

問 日頃からの災害対策が大事。防災訓練などが必要だと思ふが。

答 反省に立ち素早い災害対策ができる危機管理体制づくりが必要。組織を見直していく。

問 前川などの溢水対策として、大雨予想のとき水田の排水を止める措置はできないか。

答 検討して対応する。

問 小学生などを狙う異常とも見られる事件多発で心配。特に登下校時の対策は。

答 教育委員会、警察署、学校PTAなどが連携して対応。「安心の家」は地域の子どもたちが助けを求められるよう62軒の協力をお願いしてある。

問 地域を挙げての意識が大事。事件後どう対策をとったか。

答 学校長が安全対策の周知徹底を文書でした。地域の見守りなどして万全を期していく。



62軒が協力の「安心の家」
「いつでも守ってやるよ!!」

企業誘致の具体的目標は

公表はまだできないが良い方向に進めたい

村長の政治姿勢について

問 上緑町工業団地の企業誘致が最重要課題として、具体的な目標と誘致目標年度。誘致活動はどうすすめるか。

答 地権者に平成11年7月以降話をしてないことを謝り、ご理解いただきたい。行革の中で担当職員も配置して取り組んでいる。公表はまだできないが、良い方向に進めたい。



最重要課題の企業誘致に職員を配置

問 合併問題の中で、地方分権の道筋が明確となっている。議会特別委員会のまとめで、理念を共有し、地域の発展、住民福祉の向上が見込める相手があるとき住民と共に検討したい」としているが、自立一辺倒の取り組みの中ではそのような状況が起こるか心配に思うが。

答 その時点で相談して進めていきたい。

問 執行は行政に委ねら

矢口 八朗議員

れており、自立だけでは禍根を残す。合併町村の資料も取り寄せ自立を進める中で研究、勉強も必要に思うが。

答 議員の言うとおり。

問 財政は厳しくなるが、村民との共同参画行政が必要。考えかたは。

答 自立シミュレーションを作っており、実現に向け頑張りたい。

問 行政の主旨、内容を細かく知らせ、住民とのコミュニケーションを図るため地区担当職員を設置する考えはないか。

答 次年度区長会と話をしていきたい。

問 法人村民税の標準課税の陳情が法人会から出ており、均等割は標準だが、法人税割が超過税率の実態はなぜか。

答 今までを引き継いできている。今後近隣市町村の状況を見ていく。

教育問題について

問 全国的には児童、生徒の学力低下やまた教員のセクハラが問題になっているが松川村はどうか。

答 憂慮すべき大変な問題。小学校はほぼ全国平均、郡・県平均をやや上回る状況で、中学校も少人数学級など継続して取り入れ基礎学力の定着や実態に応じた個別指導を工夫し進めたい。セクハラの問題は無い。

問 要素があることを認識し、教委と先生の意志疎通を増やし、生徒への接し方を把握する努力が必要に思うが。

答 県・村の教委から綱紀肅正を通知している。

問 国の三位一体改革で教員の国負担金の見直しが問題となっており、地域間較差も広がる心配がある。特色ある学校づくりの努力をしてほしい。

答 きめ細かな教育のために少人数学級など県費・村費で手当し、水準低下しないよう努力したい。

川西の(城山)山腹災害の対策は 県と協議し治山事業を要請する

倉科 和議員

災害多発箇所への対策

問 23号台風の災害で、現場を視察して何を感じたか。

答 治水対策と植林、水路などの改良事業が必要。

問 予想しなかった箇所と繰り返し災害がある箇所に分けられる。予想しなかつた川西地区と鼠穴

地区に代表される山腹地域の災害の対策は。

答 川西城山は県と協議し、治山事業を要請する。南馬羅尾線は県確認が終わった。堰堤などの整備を要請する。

問 山腹周辺の防災方法は。

答 専門家に検討していただき、それに従う。

問 県と直接立ち会って話をしたか。

答 川西については県の林務課に現場を見てもらい、工法のアドバイスも受けた。

問 多発地域の、李(すもも)沢の改修要望が毎回あり、幾度も改修したが、今回も被害が出てしまった。今後の対策はどうか。

答 砂防堰堤が良いと思うが、県とも相談する。

問 前川はどうか。

答 橋まで水位が上がっている。改良は難しいが専門家と協議し進めたい。

問 地震対策で、大町地震の資料はあるか。

答 松川村誌にある。

問 新潟中越地震の救援

穂高広域でごみの最終処分場をもつのか

穂高広域も検討委員会を立ち上げる

新村 久仁男議員

廃棄物をめぐる実情

問 県内の廃棄物最終処分場の残余年数が県全体で、2年半、中信地区では約7ヶ月。そんな中、中信地区処理施設検討委員会の検討は、県の抑制条例の骨子案が公表され、

知事権限を強化して知事が中止した。それが突然、松本地区の戦略的環境アセスメント(SAE)が、来年度再開と聞くがどう思うか。

答 一般廃棄物の処理は法律では市町村の責任。ごみの減量化には村一丸となつて取り組んできた。県の最終処分場設置は年数もかり今の手法では決まらない。県の協力が必要。

問 SAE候補地の中で、村内3カ所があるが、村・住民への意見聴取はあったか。

答 村内では、川西・西原・鼠穴が候補地。事前の意見聴取はなかった。

問 穂高クリーンセンターの焼却灰を、福井県敦賀市の民間業者が委託処理した。その業者が違法処理を行ったと聞くが。

答 福井県が許可を取り消し業者は倒産。敦賀市が覆土工事を代執行し、その費用を「排出者責任」として広域が180万円要求された。環境省の判断では、恒久的にその責任を負わなければならない



県のSAE候補地が村に川西・西原・鼠穴の3カ所

いとされ、自前で処分場を持たないと処理できない。

問 穂高広域施設組合で最終処分場までもつたほうがよいのか。

答 穂高広域でやっている。穂高広域の今後の取り組みは。

答 安曇野地域合併協議会資料の試算では、平成24年を目標に、施設計画で120億円・リサイクル施設で15億円・最終処分場で55億円としている。穂高広域でも検討委員会の立上げを決めた。

ごみの減量化対策

問 ごみの減量化に向けて、村の取組み状況は。

答 平成13年10月から燃えるごみの有料化を実施。これで分別が進みごみの資源化が図られた。村として生ごみ処理機の導入補助・リサイクルの徹底・広報活動を行っている。

問 生ごみの堆肥化で二次処理の検討や、集団資源回収団体の育成と奨励金制度も必要となるが。

答 ごみの減量化・資源化に向けて強力に取り組む。

ボランティアの報告を。
答 区長と福祉救援ボランティア・社協職員・村職員の22人で、12月2日に新潟県川口町へ行った。炊き出し、倒壊したビルハウスの片付けなどをした。感想としては、自主防災組織の必要性などを感じたと報告を受けた。

村の伝統の継承など

問 クロスカントリーコース入口に利用しやすくわかりやすい看板をつけて、利用促進に取り組みはないか。

答 危険箇所は手すりをつける。

答 手づくりの利用しやすい看板で対応する。利用促進は、村民の自主的参加を要請し呼びかけていく。

問 過去5回文化講演会を開催。この実績の上に今後の計画は。

答 今後も生涯学習の一环として、手づくり講演会をする。

問 祭など、村の伝統をどう伝承するか。

答 後継者不足。保存会的活動への展開を期待。

問 公園墓地の参道整備を。

答 危険箇所は手すりをつける。



治山事業を要請する災害箇所(川西地区の城山)

中学校に卓球クラブを新設してほしい

現状は難しいが学校代表として出場できるようにする

百瀬 清議員

中学校部活動について

問 今年度卓球をする小学生が増えたため、松川少年卓球クラブを設立し、保護者会も発足した。しかし、中学校に卓球部がないのでは、せつかくの子どもたちの夢や目標が遠のいてしまう。中学校に卓球クラブの新設を考

えてほしい。

答 中学校部活動に卓球を加えてほしい要望を受けている。しかし、全教員数24人の中学校において10の部活があり、顧問にそれぞれ2人の教員があたっている現状を考えると無理である。昨年も男子テニス部をという話があつたが、断念した経緯もある。社会体育でスポーツが盛んになっている現状から、学校も全面的に支援していくことになつている。たとえば、中学校体育連盟の大会参加の場合は、要請により顧問の先生を参加させ、松川中学校代表として出場できるように協力する。

問 中信地区で同規模中学校で卓球部のないのは松川だけ。1人3つの部活を持つようにしてほしい。

答 話し合いの機会を作る。

ごみを肥料に

問 生ごみの減量化にどう取り組むか。

答 色々な方法はあろう

自立合意の地区懇談会の成果は 今まで10地区〓わかつてもらえた〓

宮崎 弘議員

村づくりの夢が見えない

問 自立合意に向けての地区懇談会の成果は。

答 10地区で開催した。「自立可能な村としての将来ビジョン」をわかってもらえたと思う。

問 どんな意見があつたか。

答 具体的なものは入れ

答 50件くらい。今の村政への質問が多い。

問 「村づくり戦略」は財政上厳しいとの表現で、村づくりの夢が見えないイメージとして、「住民は互いに助け合い、高齢者の談笑と子どもたちの歓声の響き合う村」を入れたらどうか。

問 「自立可能な」の表現は意志が弱く感じる。

答 「実現の余地がある」との意で施設整備やソフト事業は難しいが抜本的な改革と、村と住民による協働の村づくりが必要となるという意味。

問 第5次総合計画に基づいているのか。

答 具体的には、後期5か年計画で示す。

問 保健センターの増築があるが。

答 住民ニーズも多様化し、役場周辺一体の整備計画で検討する。

営農支援センター総会は

問 農家懇談会が終了したが、どう感じたか。

答 村の「水田農業ビジョン」について平成17年度以降の進め方を中心に行つた。今年度の反省と、

問 営農支援センターの運営に、組織を早くつくり総会も開催せよ。そして、松川村農民組合と消費者の代表を入れないか。

答 運営委員会での検討が必要。専門部会への参加が考えられる。

問 鈴ひかりの評判と販売実績は。

答 15年度米は30トン完売。良質米の生産に努める。

問 YM（寄つて停まつかわ）直売所への村の支援策は。

答 関係者と協議する。

村長公約の実践

問 農業支援検討チームづくりは。

答 営農支援センターで行う。

問 特別職の報酬減はいつ行つか。また村政の新しい考え方は。

答 一般職との整合性もあるが、早い時期に示す。また後援会の意見も聞いていく。

問 営農支援センターの運営に、組織を早くつくり総会も開催せよ。そして、松川村農民組合と消費者の代表を入れないか。

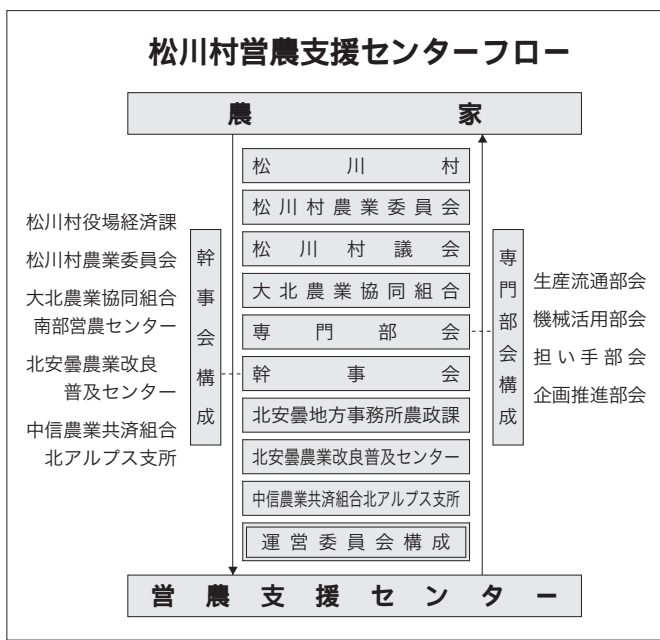
答 運営委員会での検討が必要。専門部会への参加が考えられる。

問 鈴ひかりの評判と販売実績は。

答 15年度米は30トン完売。良質米の生産に努める。

問 YM（寄つて停まつかわ）直売所への村の支援策は。

答 関係者と協議する。





こまくさ会により整備された水辺公園のようなマレットゴルフ場

かと、思うが廃棄物として出される生ごみについては、分別をしつかりして減量化したい。

問 20人の方が上田市へ視察に行き、大変良い方法を教えてもらったようである。一辺が50センチほどのダンボール箱に、もみがら状の炭とピートモスを入れ、その中に生ごみを入れかくはんすれば、臭いもなく上質の肥料に変化するそうである。村でも進めてみてはどうか。

答 大変参考になる。村でも取り組みたい。

マレット施設の維持管理

問 マレットゴルフ場の協力金の使途は。

答 場内整備、管理及び雑費として10万円ほどこまくさ会へ支出。水道料金内板設置、トイレの汲み取り費など合計47万円を支出している。

問 利用者の中に協力金投入を監視されているようで、不快感があるというが。

答 そのようなことがないよう十分配慮していく。

地域のコミュニティを児童館利用しないか 考えている

井川 昶子議員

児童クラブに未登録児童にも支援を

問 次世代育成推進構造計画の策定が検討されている。村長の考え方は。

答 子供王国、福祉の村を目指したい。

問 ふれあい館の登録児童数と平日及び土曜日の平均利用数、来年度の登録見通しと登録の条件は

答 小学1年から6年生で105人、平日約50人、土曜日2〜3人。登録の条件は、放課後の留守家庭。来年度はアンケートでは120人。

問 過密で早急な改善が必要。村内を3〜4カ所に分け地域内のコミュニティセンターなどで職員を配置して行わないか。

答 考えている。

問 児童クラブに登録しない子どもたちにも支援策が必要。

答 ほかの公共の建物の利用を考える。

介護保険制度が見直しでの影響は

問 介護保険制度の見直し実施時期は平成18年4月で、今の要支援・要介護1は4割、影響はどうか。

答 介護度が悪化しないようにし、予防に力を入れる。

問 ホテルコストなど利用料の値上げが予測される。追い出される方がいたらどうするか。

答 ホテルコストなど利用料の値上げが予測される。追い出される方がいたらどうするか。



区で維持管理しているコミュニティ施設の多様な活用(板取区)

答 そうならないように、運動しなければ。

問 障害者支援費制度との統合が心配。また介護保険の見直しに関連した村の総合福祉計画の見直しはしているか。

答 老人福祉保健計画が15年から19年度までできている。整合性をその時点で検討する。

問 広域まかせでなく村も要望してほしい。

答 やる。

コミュニティで老人福祉を

問 ショートステイのベ

ツド確保の要望を検討したか。

答 利用率は100パーセントを超えているが、経費的に難しい。

問 地域のコミュニティを活用し、地域と村が支援体制をとらないか。

答 行っているところもあり取り組んでいく。

問 福祉の助け合い地域通貨を村が音頭を取って進めないか。

答 ボランティア活動が定着しており、通貨制度導入でボランティアの意義を崩しかねない逆の部分もある状況。

旧第2倉庫などの利用状況は

緑町中区の防災公園と民族資料収蔵庫

平林 昌彦議員

新年度予算と将来の財政計画について

問 予算編成の基本的な考えではソフト事業を優先し、投資的事業に村長色を出すのか。

答 そのとおり。

問 重点施策と、一般会計予算の総額は。

答 経常経費をまず編成し、次に投資的経費に。重点施策は福祉、教育とし編成している。総額は37〜38億円と書いている。

問 地方財政計画が示されたがその印象は。

答 厳しい。しかし交付税減とならずうれしい。

問 最少の経費で最大の効果が基本だと思うが。

答 そのとおり。

問 自主財源確保には企業誘致を重点とするか。

答 自主財源確保のためにはすべてに配慮をしていきたい。

問 その担当職員を配置しているが。

答 行政改革の中で企業誘致も財源確保につながる」とし配置した。

J A大北旧第2倉庫跡地利用について

問 取得したこの土地の倉庫、公園の利用状況を知りたい。

答 倉庫は収蔵庫として活用し稲作を中心とした民俗資料・遺跡の出土品・イベント用備品を収蔵。民俗資料委員が展示に向け作業中。公園は防災公園とし緑町中区で管理してもらっている。

問 収蔵庫の改修計画があるが今までの経過は。

答 倉庫は老朽化し、屋根と壁の補修が必要だが、実施計画で見直す。

問 民俗資料はどのくらいあるか。巡回展示も考え、生涯学習などの活

用は。

答 倉庫がある限り今のままと考え、やすらぎ公園」は緑町中区で管理してもらおう。資料の室内・巡回展示は検討していく。

西原遺跡公園の用地取得の進捗状況について

問 用地取得が進んでいないがその原因は。

答 全体約17190平方メートル未買収地は4222平方メートルあり、代替地希望、その他の理由がある。

問 代替地は村土地開発公社が公共用地の先行取得としているその経過は。

答 村へ土地売却希望があり、北川原地区1683平方メートルを買収した。まだ残っているのは代替地希望者の要望に合わなかったからと思う。

問 読みの甘さと思う。遺跡公園を含め周辺の開発について村づくり委員会に提言を仰いでいるが

村の将来に大きなポイントとなる土地であり、重要な開発になると思う。その認識は。



「やすらぎ公園（旧第2倉庫跡地）」は緑町中区が管理

答 出来得る限り早く買収を済ませ、検討していきたい。

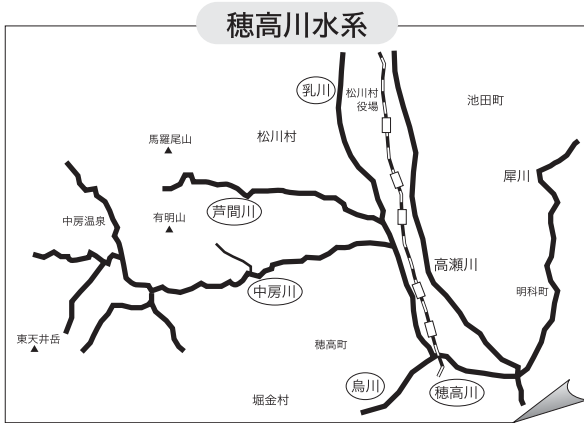
この同盟会は、穂高川水系（中房川・烏川・乳川）流域に係る穂高町・堀金村・松川村・大町市と、中部電力㈱で組織し、参加市町村の首長と議員の代表・中部電力の代表が委員として年1回の総会を行い、流域の災害防除、治水治山事業の早期実現を期し、関係方面に運動を行う」ことを目的に、要望活動などを行っています。

平成16年度予算額は、

歳入・歳出ともに122万3000円です。歳出の主なものは、提案・現地調査・視察などの事業費50万円と予備費57万3000円です。

大町建設事務所管内の主要事業は、平成16年度分は乳川通常砂防工事が乳川谷で1億円・河川改修は、川久保地区で2200万円、芦間川は、細野地区の護岸工事200万円が計画されています。

知っていますか？ 穂高川水系治水砂防期成同盟会



給食費で運営する

池田町・松川村
学校給食センター

平成16年10月13日
運営委員会報告

平成15年度給食費特別
会計歳入歳出決算を認定
しました。

【歳入】

給食費
池田小学校 1703万2140円
会染小学校 1542万9004円
松川小学校 3675万1530円
高瀬中学校 2228万8480円

【歳出】

主食・副食・牛乳など
総額 1億1421万9707円

運営委員は17名以内で、
各小中学校長5名・小中
学校PTA会長5名・学
識経験者として、議会議

松川中学校 2128万7520円
地産地消地域支援事業
補助金など、
総額 1億1421万9707円

員2名・学校医2名・薬
劑師2名と、次回から栄
養士1名が加わります。
また、17年度の食品納
入予定業者は、松川村は
松川村みそ生産組合・松
川村給食野菜組合などで
す。米飯には地元産コシ
ヒカリに、5割の麦をブレ
ンド(加える)し、ピ
タミンB₁・B₂・繊維質が
とれるようにしており、
成人病予防をする安全安
心の食品に配慮していま
す。

学校給食は、池田町と松川村で共同で運営しており、
給食費・食品などに関する会計は「給食センター運営委
員会」で、各町村の負担金で管理の人件費・工事・備品費
に関する会計は「共同調理施設組合議会」で担当してい
ます。

負担金で管理する

池田町・松川村
学校給食共同調理
施設組合

平成16年10月14日

第2回定例会報告

平成15年度組合一般会
計決算を認定しました。

【歳出】

主な内容は、
児童生徒数2000人
池田町 976人
松川村 1024人

一部事務組合報告

松川村の負担金

5590万円

県の「地域食材の日」
を実施し、地元食材は前
年の倍の納入量になった。
今後も地産地消を推進す
る。

給食センターは23年目
を迎える。施設の老朽化
も見られるので今後も維
持管理に取り組む。
などです。

平成16年度補正予算は、
施設工事請負費・一般賃
金などに627万円を追
加し、総額を1億156
1万円としました。

人事案件が出され、教
育委員に梨子田耕氏(松
川村教育長)、監査委員に
矢口八朗議員(松川村議
会議員)が選任されまし
た。

葬祭センター
施設組合

池田町・明科町・松川村

平成16年10月14日

第2回定例会報告

協議事項は、平成15年
度池田町明科町松川村葬
祭センター施設組合一般
会計補正予算で、専決処
分した待合室改修事業債
90万円の減額など、全体
で76万7000円の減額
補正予算専決事項を全会
一致で承認しました。

松川村 30万円
320万3000円
待合室改修事業債
750万0000円
繰越金
214万6129円
使用料(267体)
206万1000円
(地区内1体7000
円、地区外1体2万9
000円)

【内訳】

待合室改修事業設計委
託料 66万円
待合室改修工事請負費
1016万6100円
火葬場各種修理など
109万1947円
事務局職員給与負担金
154万0000円
火葬総務費給料など
504万2218円

平成16年度の補正予算

で、歳入歳出106万3
000円の補正の説明を
受け、全会一致で可決し
ました。

内容は、火葬場の床塗
装・カーテン・扉の修繕
関係費用です。

平成15年度の一般会計
歳入歳出決算書について
説明を受け、全会一致で
認定しました。

【内訳】

分担金
池田町 40万円
明科町 30万円
320万3000円

あれはどうなっているだい!?

村民の方から寄せられた疑問などにお答えします



細野地区の有害図書の自動販売機

高瀬川マレットゴルフ場から寄って停へ行くのに堤防道路下の水路を通れないかい?

答 その要望があり、利用者の中では高瀬川マレットゴルフ場と寄って停の安全な通行をどうするかなど考えられています
が、堤防は水防が第1の役目です。
今までに県とも現地を見て協議しましたが、堤防が主であり、改良も造設もできないというのが現状です。



寄って停東の堤防道路下の水路

ポルノ雑誌やアダルトビデオの販売機は、なくせねえだかい?

答 村の青少年育成村民会議では地主や販売機の設置業者に、撤去のお願いをしてきました。しかし業者はそれが商売であり、法律違反ではないので、どうにもなりません。
今は違う場所へ新しく設置しないよう村民のご協力をいただきその運動をしています。
皆さんも土地を貸してほしいなどの話を持ち掛けられたときは、何に使うかを確認し、「おや?」と思ったら社会教育課までご連絡ください。

編集後記



雪の季節となりました。寒さ厳しい中、震災、水害に遭われ永年住み慣れた家を離れ仮設住宅で冬を過ごす中越の皆さんの気持ちは如何ばかりかと思ひ、お見舞い申し上げます。

国の2005年度予算の政府案が示されました。財政再建のために国民に歳入歳出両面から負担を求め、負担が一層増す内容となっています。

村でも「自立」の村を目指して新年度予算の編成に懸命に取り組んでいます。議会も「協働」の心を常にもちながら、新しい村づくりへの協力をさらに続けていきます。

松川村議会報編集特別委員会

- 委員長 白澤富貴子
- 副委員長 矢口弦八郎
- 委員 平林 源起
- 森 平蔵
- 新村久仁男
- 百瀬 清
- 榛葉 良子
- 平林 寛也